

大村市竹松遺跡で古代から中世の 貴重な遺物や大規模な溝を発見!!

平成25、26年度の九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）建設に伴う大村市竹松遺跡の発掘調査で、県内では初めて出土した古代から中世前半（奈良時代から鎌倉時代）の遺物や、古代末から中世前半（平安時代末から鎌倉時代）の大規模な区画溝が発見されました。

1 県内で初めて出土した遺物

(1) 土馬とば（全長 15.8 cm、最大幅 4.4 cm）

馬の形をした小型の土製品で、古墳時代から古代にかけて雨ごいなどのお祭りに使われました。本遺跡出土の土馬は古代の包含層から出土しましたが、全国的には溝や川のそばから見つかることが多いものです。



竹松遺跡の土馬

土馬の例



米子市教育委員会提供

(2) 仏塔（高さ5.1 cm、最大幅6.8 cm）

上下を欠いていると考えられるために全体の姿を復元しにくいのですが、「瓦塔」もしくは「土製円形層塔」と考えられます。奈良時代から平安時代に作られた仏教関係の土製品です。竹松遺跡からはこの他にも、須恵器製の鉄鉢てつぼつや四面庇建物など仏教と関係があると思われるものが見つっています。



竹松遺跡の仏塔

円形層塔の例



宮城県教育委員会提供

※記者発表後の調査指導により、竹松遺跡から出土した「仏塔」ないし「瓦塔」は、「香炉蓋」の可能性がきわめて高いとのご教示をいただきました。
(平成29年3月13日 追記)

香炉蓋の例



鹿児島県小倉畑遺跡出土品（身は復元品）

(3) カムイヤキ（壺胴部片 4点）

11世紀後半から14世紀（平安時代後期から鎌倉時代）にかけて鹿児島県奄美群島の徳之島で焼かれた焼き物で、釉薬は掛けずに焼き締められています。断面の色調（両面が灰色で中心があずき色）と表面に見られる波状の沈線が特徴です。



竹松遺跡のカムイヤキ

カムイヤキの例



文化庁 文化遺産オンライン
「徳之島カムイヤキ陶器窯跡」より

2 大規模な区画溝

幅 3~4m、深さ 1.3m~1 mの南北に走る大きな溝を検出しました。長さはおおよそ 1 町（110m）で、両端がほぼ直角に曲がり、東へ延びています。溝の中からは、中国産の陶磁器碗や皿、土師器の坏や皿、石鍋などが大量に出土しました。これらの出土遺物の年代から溝が使われていた時期は 12 世紀中ごろから 13 世紀終わりごろ（平安時代末から鎌倉時代）ということが分かりました。

溝の内側からは、溝と向きが同じ掘立柱建物跡が 6 棟見つかりました。このことから、この溝は屋敷の敷地を区画するための溝であることが分かりました。



区画溝
(合成写真。左が北)



区画溝内
遺物出土状況



区画溝周辺
調査風景

3 発見の意義

(1) 土馬

飛鳥時代から奈良時代にかけて律令体制が確立してくると、国家の安泰を目的とする祭祀が行われました。その時に使われた道具が土馬、木製の人形、人面土器などです。これらの道具の出土地を見ると、都や官衙（役所）、あるいは官衙に関係する集落に集中します。このことから、竹松遺跡出土の土馬は当遺跡が官衙に関係のある遺跡であることを裏付ける遺物であるといえます。また、律令体制に伴う祭祀が我が国の西端まで及んでいたことが分かる資料でもあります。

(2) 仏塔

仏塔を納めた仏堂があったことが考えられます。さらに、竹松遺跡の近くに寺院や役所があった可能性もあります。また、この時期に仏教がこの地に広まったことを示す資料でもあります。

(3) カムィヤキ

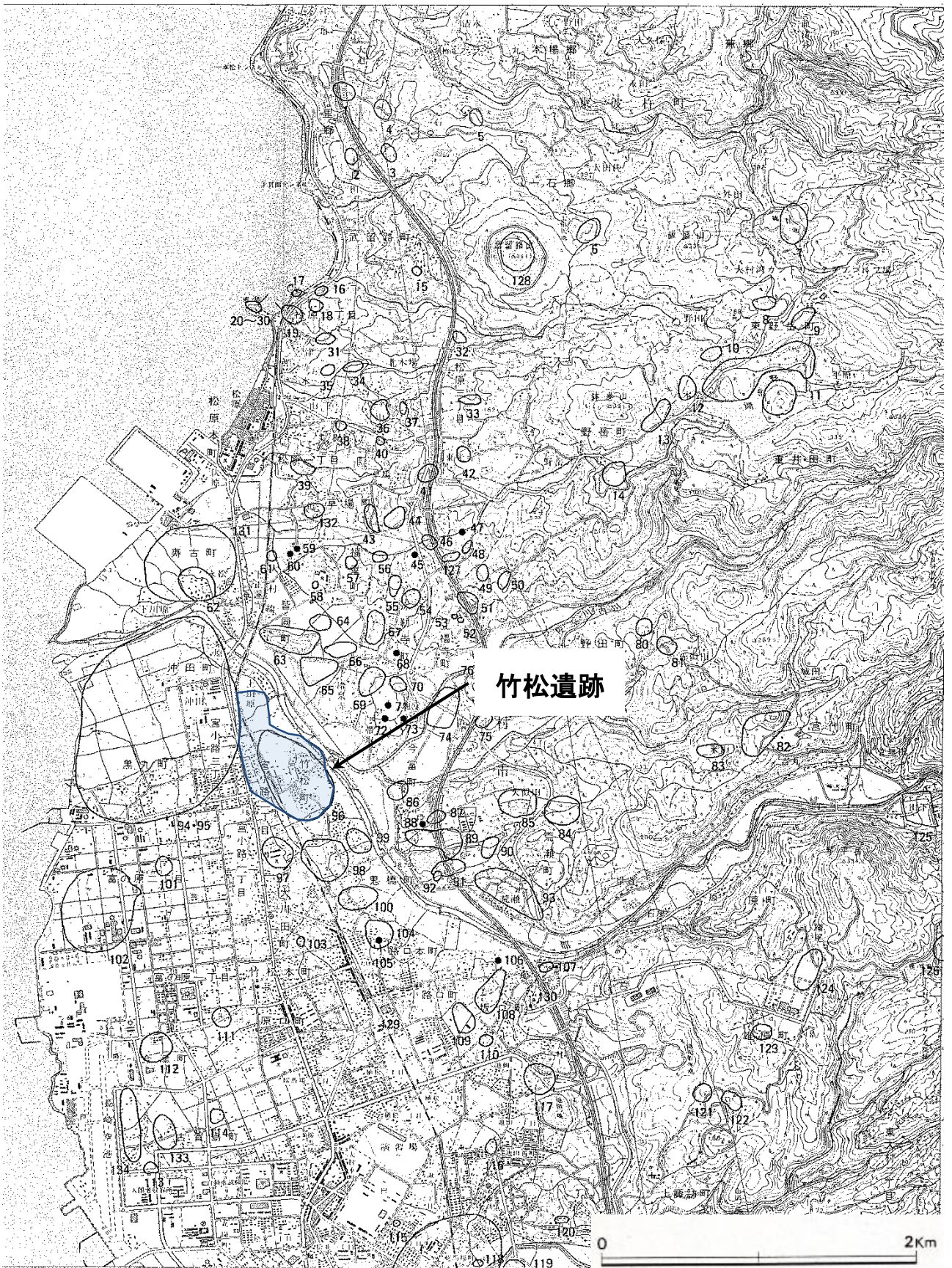
琉球列島全域の遺跡から出土し、本土部では鹿児島県出水市まで確認されていましたが、今回の発見で分布がさらに北上しました。これまで徳之島を含めた琉球列島から、西彼杵半島産の滑石製石鍋が多く出土していましたが、奄美群島の品物も長崎県本土部に來ていたことが分かり、お互いの交流があったことを裏付ける貴重な資料といえます。



遺跡遠景（南から）



遺跡遠景（北から）



竹松遺跡 位置図